

Title	学界の消息
Sub Title	
Author	
Publisher	三田学会
Publication year	1911
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.5, No.4 (1911. 10) ,p.545(197)- 554(206)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19111020-0197

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の欲望の充足の價值が自己の豫期せる、結婚に因りて生ずる有形、無形の失費の價值に超過すと思惟せるが故なり。其欲望多く且つ強きも其失費の多きこと分明ならんか、結婚を斷行するもの從つて勘からん。又其欲望多からず且つ薄弱なるも、豫期すべき失費皆無なるか或は僅少ならば、結婚を躊躇するもの多からざるべし。然れども欲望を感ずるは易々たるに反し。結婚に因りて生ずる有形、無形の失費を豫知豫測するは多少の教育、經驗を要するを以て普通、人は單に其一部分を覺知して夫れに對する豫算をなすのみにて、自己の有する結婚に依りて満たさんとする欲望の充足の價值と、結婚の醸す有形、無形の失費の價值を正確に比較秤定し得るもの殆んど無からん。此失費を豫測算定すること少き程夫れ丈結婚に對する躊躇少きなり。文明國よりも未開國に、有識者間よりも無教育者、愚民間に輕卒なる結婚をなし、善後策に窮する者多

きは之が爲なり。以下次號)

學界の消息

日 本

●佐野善作氏と博士號 商業政策論の大家なる佐野善作氏は我國の取引所史に關する論文を提出して去る七月下旬法學博士の學位を受領せられたり

●新渡戸博士の渡米 第一高等學校々長兼法科大學教授なる新渡戸博士は八月下旬東京出發渡米の途に就かれたり。同博士の渡米の動機は日米間の意志疏通の一機關として今回我國に來遊したる『インデペンデント』雜誌の持主ホルト氏の主唱に依りコロンビヤ大學の總長バトラー氏の幹施を以て成立したる兩國間の講師交換の第一着として政府の指令に依りて我學界を代表して米國の數箇大學に於て講演をせらるゝにあり來年は米國より一名の講師來りて講演を聞く

と云ふ新渡戸博士の米國滞在期の豫定は來年六月迄にて其間にブラウン、コロンビヤ、ジョン・ホプキンス、イリノイズ、ミネソタ及び他的一大學校都合六大學にて日本の地理、歴史、經濟事情、財政、日米關係、滿洲に於ける日本等の問題を各所に於て六週間一週二時間宛講演し且つ同時に少數の教授學生を集めてセミナーを開き意見の交換を試みらるゝ由又日米間教授交換事務を擔任せらるゝコロンビヤ大學總長バトラー氏は新渡戸博士が講演せらるゝ各大學の各大學の組織、教授及び學生の生活、教授學生間の關係等に附き仔細に觀察せられんことを希望し居らるゝと尙博士は前記定時の講演及びセミナー以外に講演地附近の他の學校及び各種の學會の請求に應じ我國民の生活文明等に關し演説することあるべしと云ふ

●慶應義塾の新米國教授 昨冬辭職して歸國せる慶應義塾大學部經濟學教授ビカース氏の後任

としてハーバード大學出身レー氏來朝して本學期の始めより就任したり氏は數年前カンサス州立大學を卒業し其後ハーバード大學研究科に入り經濟學を專攻せられたるが今回慶應大學の招聘に應じて同校に教鞭を執ること、なれり本年の擔任學科は經濟學史、經濟史及び名著研究にて三年前より同所に經濟學を教授し居らるゝ同じくハーバート出身マクラレン氏の擔任科目と同一なり來學年には兩氏擔任の學科に多少の變更あるべしと

●社會政策學會講演 社會政策學會は九月三十日に京都帝國大學構内に其講演會を開き翌十月一日には神戸高等商業學校に於て引續きて講演を催したり兩會とも頗る盛會にして列席の知名の經濟學者、地方の官公吏有力者其他一般聽講者は千餘名に及びたり京都の講演には京大教授田島博士の開會の辭ありて京大總長菊地男爵歡迎の辭を述べ講演に移りしが講演者の氏名及び

其演題は左の如し

- 大なる意味の社會政策(上) 堀切善兵衛氏
- 國際金融論 服部文四郎氏
- 私法學と社會政策(其二) 福田 德三氏
- 勞働運動 高野岩三郎氏

猶ほ此外に中島信虎氏も一場の講演を試みられたり、神戸の講演會には津村教授開會の辭を述べ次いで水島神戸高等商業學校長の歡迎の辭ありて後ち左の諸氏各其演題の下に其主張を吐露せられたり

- 新舊思想の衝突 中島 信虎氏
- 不廉なる生活 河津 遼氏
- 本邦社會政策の將來 關 一氏
- 社會政策と哲學 河上 肇氏
- 大なる意味の社會政策(下) 堀切善兵衛氏
- 高き公債か安き物價か 服部文四郎氏
- 細民調査 高野岩三郎氏
- 私法學と社會政策(其二) 福田 德三氏

●英國經濟學者の來遊 社會政策の大家として有名なる倫敦經濟學校の教頭シドニー・ウエブ氏夫妻は世界漫遊の途我國に立寄り過般來各工業地及び内地の經濟狀態殊に勞働者の生活事情

を視察しつゝあり氏の今回の來遊は單に學者として一個人の資格なるを以て出來得る限り官民の注意を惹かざる様旅行せられつゝあるも兎に角英國屈指の經濟學者のことゝて各所にて我國の經濟學者より歡迎を受け時には一場の講演を試みらるゝことあり云因夫人も亦有名なる經濟學者にして結婚後のウエブ氏の著書は夫妻の共著として發表せられつゝあり

獨逸

●新統計協會 獨逸社會學協會の支會として獨逸統計協會なるもの生る會長はフホン、マイヤ氏にして書記はドレスデンのヴィルズブルガー博士なり

●ブレースラウ大學の創立百年祭 ブレースラウ大學はシレージエンに在りてプロイセンにては伯林大學に次ぐものなるが去る八月三日創立百年祭を執行したりと云ふ尤もブレースラウに

ては明治三十五年以來此度にて三回創立紀念祭を行ひたり是れ此大學が元來ブレースラウのレオポルド大學をフランクフルト・アン・デア・オーダーのピヤドリーナとを百年前に合併して成れるものにしてレオポルド大學はカイゼル・レオポルドに依りて創立され明治卅五年十月其二百年祭を執行し又ピヤドリーナはフランクフルト人がスラブ人に對して獨逸の國粹を保存せんとして起せしものなるが明治卅九年四月四百年祭を執行し今年に至りて此兩校合併の百年祭を舉行せるなり此ブレースラウ大學は同じくプロイセンに伯林大學創立せられてより衰微せるが如き傾向あるも歴史上頗る重要な地位を有し千八百十三年フリドリッヒ・ヴィルヘルム三世が那翁に拮抗せんとして義勇兵を募集せる際の際の如きは此大學が東部に於ける愛國運命の中心となりて其哲學及び物理學の教授なるステッフエ

ンスが自から義勇兵を引率せるが如きは最も有名なる事實なり又從來の教授中にも有名なる人物少なからず化學者のブンゼン歴史家のモムゼンの如きは此處に授たりし事あり且つ歴史家にて小説家なるフライタツハの如きは日本に於ても『ゾル・ウント・ハーベン』の著者として有名なるが數年間此大學に於て講師として親しく教鞭を執りしが衝突の結果として其地位を棄て全然身を創作に委ぬるに至れり又ミュンヘンの經濟學者ブレンターノの如きも一時此處に教授たりし事あり尙現在の教授中には法學教授にして歴史小説家なるダーンあり『ペーター・マン・ス・ミツ・マイルンゲン』の編纂者なる地理學者ス・パンあり經濟學者としてはユーリユス・ウオルフありて中流の大學としては最も有名なるものなり又其圖書館の如きは初めは頗る幼稚なるものにして神學者エルフェニツヒが館長たりし時

代には十二冊請求すれば其中エルフェ(十一)ニツヒ(無し)など、嘲弄されたるも今は完備して同地方に關する寶房なりと云ふ

●社會政策學會の新研究 社會政策學會にては今回熱帶地方に於ける歐洲人の移住なる問題の下に熱帶地方に於ける白人の經濟狀態を研究せん爲各經濟學者に分擔を依頼しラートゲン氏の如きも其一部を引受けたる由なり而して是れは纏り次第社會政策學會叢書の一として出版さるゝものにして各分擔者の頁數は卅二頁より九十六頁迄にして報酬は十六頁毎に五十圓にして其内二十五圓は學會より支出し残りの二十五圓は殖民省より補助さるゝ筈なり

●ハイデルベルヒの正教授ゴーター・イン氏は國民自由黨の候補者として衆議院議員選舉に打て出づるなるべしと傳へらる

●ハムブルヒのハルムス教授 は世界經濟ノセミナーを開きたり

●ライプチツヒ講師ビーヤマン氏はスチーダ門下の秀才なるが今回五萬マルクを同大學へ寄附されたり獨逸大學の講師は無給なる故ビ氏の如く巨額の寄附金をなすは異例にして頗る人の注意を惹けり

●ヤツフェー氏の昇進 『英國銀行論』の著者として且つ『社會科學及び社會政策雜誌』の發行者として有名なる同氏はミュンヘン大學の名譽教授(ホノラール・プロフェソル)に昇任せり

●名教授の古稀 ミュンヘンのマイヤ教授は本年四月十二日に古稀の税典を擧げられしがゲツタンゲンのコーン教授も十一月十二日に同様の祝賀式を行はるゝ由なり

●オンケン教授の永眠 ベルン大學の教授にしてアダム・スミス以前の經濟學史の著者として有名なるオンケン氏は昨冬長逝したり國民の經濟學史は此種の著書中の白眉たるものなるが其續編を完成するに至らずして他界したるは斯學

の爲に惜みて尙餘りあり

●獨逸社會政策學會總會 シモラー教授を會長とする同學會今年度の總會は今月九十兩日の月曜日と火曜日にバイエルンのニュールンベルヒ市にて行はるゝ筈なるが討論題は「地方税問題」にして報告者はミュンヘンのロツ教授、ドルトムンド市の市參事會員ボルト、フランクフルト市の市參事會員ヴェルの三氏なり而して月曜日の開會は九時半閉會は五時にして専ら報告と討論を行ひ火曜日は九時半に開會し先づ前日討論の残りあれば之を行ひ終はりてシャイロツテンブルヒ高等工業學校のヘルクナー教授の「勞働者の心理問題特に勞働者同盟の方法及び結果に就て」なる演説ありて三時に閉會する筈なり

●討論演説等は右の如き順序にて行はるゝ筈なれども尙八日の日曜日午後より餘暇を利用し會食又は家族同伴の散歩或は工場の視察等をなし十一日水曜日に全く終りを告ぐる由なり

佛國

●レバサー氏の訃音 コレジ・デ・フランスの主任にして統計學者とし且つ亦た經濟史家として世界に有名なる佛の碩學エミル・レバサー氏は去る七月十日に八十三歳の高齡を以て長逝せられたり氏は千八百二十八年十二月八日パリに生れ二十一才の時高等師範學校に入學し經濟學殊に貨幣問題を專攻せしが間もなく(千八百五十四年)『公貨』De pecuniis publicis 及び『ローの制度に關する史的硏究』Recherches historiques sur le système de Law と題する二論文を發表せり千八百五十八年にはカリフホルニヤ及オーストレリヤに於ける金鑽の發見に關する硏究を發表し大に名聲を揚げたり其翌年氏はシーザーより革命戰爭に至る迄の佛國勞働者の歴史に關する著書の第一卷と第二卷を上梓し第三卷と第

四卷は千七百〇三年と四年とに發刊せり此外に發表せられたる著書論文等尠からざるが生前最終の著書は本年發行せし佛國商業史の上卷にして下卷も既に脱稿し永眠に先つ數日前には試刷を校正しつゝありたりと云ふ

レバサー氏は經濟學者として令名灼燦たりし耳已ならず統計學者として又名あり氏は千八百六十年即ち氏が未だ僅かに三十二才の時既に帝國(英)統計協會の名譽會員に選ばれたり又千八百八十五年に設立されたる萬國統計學會の基礎たる萬國統計會議に參列したるが萬國統計學會の設立するに至りて其會員となり次で副會長の一人となれり且つ此學會の會報には面積、人口、教育、森林、人類の分布等に關し論文を寄稿せられたり

氏は千八百六十八年にコレジ・デ・フランスの特待教授に任せられ經濟學、地理及び歴史の講座を擔任し千九百三年には同校の主任に昇任せ

り又千八百六十三年には科學士學院の會員に擧げられたり氏は此外に教育會議員、高等統計會議の副會長、農業協會の前會長、パリ經濟學會の會長、地理協會の名譽會長、經濟地理協會の名譽會長たり且つ外國に於ける多くの統計、經濟、地理學會及び其他の諸學會の會員若しくは賛助員たりしたり

英國

●人種改良學講座 人種改良論を以て有名なるカール・ピヤソン氏は今回倫敦大學に設けられたる人種改良學講座の擔任を命ぜられたり此講座は本年一月物故したる碩學フランシス・ガルトン氏の遺志に因つき同大學へ氏の遺産中より寄附したる四萬五千磅の基本金を以て設置されたるものにして「ガルトン氏人種改良學講座」と名けられ其附屬物として研究室及び圖書室を併置したりと云ふ同講座擔任の教授は人種改良學

を硏究し且つ是れに關する知識を普及するの義務を有するを以て第一に人種改良學の硏究に必要な材料を集收し第二に此材料を比較研鑽して結論を與へ第三に照會所を設け或制限内に個人及び官公吏に對し人類遺傳の法則に關する知識を頒與し終りに(甲)講義(乙)出版物(丙)公開講演(丁)實驗若しくは觀察に依りて人種改良策の知識を普及するの責任を有すと云ふ

●貧窮者豫防會議 は倫敦市長を議長とし去る六月二日、三日、四日の三日間に亘りカクストン館に於て開催せられたり出席者は千餘名にして英國科學獎勵協會の例に倣ひ衛生、教育、法律、財政、失職及び低能者の諸部門に分れて討議したりと尙同會議は今後毎年開催する筈なり

●商業教育 萬國商業教育獎勵會は倫敦經濟學校に於て去る七月二十四日より八月十二日迄會議を開きたり

●下級勞働者の經濟學硏究 數年前發表された

る『牛津と下級労働者の教育』が一大動機となりて労働者を集めて教育を施すこと近來益々盛んとなり倫敦大學も各地方の大學と共に牛津大學の例を倣ふに至りたり今回倫敦大學にては七名の教授と同数の各労働組合の代表者より成る「労働者高等教育獎勵聯合委員會」の指導の下に労働者を十六組に分ちて教育を與へ此中十組には經濟史を三組には行政法を二組には歴史を他の一組には社會學を教授しつゝあり來年に至れば現今經濟史を研究しつゝある者の大多數は理論經濟學を習ふ等なり又各學生は三年の間定期に論文を起草提出するの義務を有し口頭の問答は講義と等しく重視せられ且つ教師の個人的指導を容易になさんが爲各組の員數を二十名に限る等は同校の労働者教育方針の特徴なりとす

米國

●米國經濟學協會 是本年の例會をワシントン

市にて十二月二十七日より三十日迄開催することに決定せり
 ●農業經濟 ハーバード大學教授カーパー氏は近き中に『農業經濟』と題する著書を發表する由出版者はボストン市のシン出版會社なり
 ●フイシャー教授の著書 エール大學教授フイシャー氏の著書『經濟學大意』は本年は之を發賣せずしてエール、イリノイズ其他二三の大學にて試用し來年改訂の上刊行する筈なり
 ●コーマン教授の著書 米國女流經濟學者の泰斗として有名なるウエルスレー女子大學の經濟學教授コーマン嬢の著書『米國工業史』は近日ベurlin市の Bibliothek der Amerikanischen Cullungeschichteに轉載せらるゝこととなりたり
 ●『エール・レビュー』 エール大學の發刊に係る同誌は是迄經濟、政治及社會問題に關する學術的雜誌なりしが今回米國經濟學協會にて殆んど同種の雜誌を發行することとなりたるを以て

其體裁を變更し十月より以前よりも通俗的なるものとして發刊すると云ふ

●セリグマン氏の著書 氏は目下財政學の新教科書を起草しつゝあり上卷(四百五十頁)は歲入を論じ下卷(二百五十頁)は歲出、公債豫算等を論ず主として米國の財政事情を基礎とせる著書なりと云ふ

●『世界各國の商法』 ボストン書籍會社は今回題目の如き浩瀚なる編纂書を發刊するに決定したりと同書は三十五卷(一卷九弗)より成り其の網羅する所は各國の商法以外に爲替手形、破産海上法、商習慣、民事訴訟手續等なり第一卷は既に六月に發行され其後毎月一卷づゝを發行する由

●フホークナー博士 は今春第十四回國勢調査の副長に任せられたり
 ●新進の女流經濟學者 ウェルズレー女子大學經濟學講師哲學博士アナ・ヤングマン嬢は女子

大學聯合同窓會の獎學金の支給を受け本學年間は賜暇を得てベルリン市に留學し地價稅の研究をなすと云ふ
 ●ウールシー氏の退隱 エール大學法律科に於て久しく國際公法の教授たりし同氏は本年病氣の爲め職を辭し退隱せられたり
 ●ラインシ氏の渡歐 ウイスコンシン大學のラインシ教授は先頃倫敦市に於て開催されたる萬國人種會議に出席し論文を朗讀し其後國際公法に關する調査に従事し居られたるが來る十一月一日よりベルリン大學に於てルーズベルト交換教授として冬期の終り迄(一)「合衆國の國際地位の政治的發達」と(二)「北米及び南米に於ける國際公法併に外交上の諸問題」に關し講義をせらるゝ由なり
 ●歐洲法學書の英譯 昨年八月開催したる米國法學校協會の會議中法學及び法律の哲理に關する諸外國の名著を協會の事業として之を英譯出

版することに決定し著書の選擇及び翻譯の監督の爲委員を選定せり而して既に決定したる著書は伊佛獨の斯學に關する名著にして未決の分を合せて都合十二冊を『近世法律哲理叢書』としてポストン書籍會社より順次出版する由なり

批評と紹介

ドクトルユリウス
神戸寅次郎著 **權利質論**

大判百〇八頁 四十四年九月東京巖松堂出版
定價不明

本書は現に慶應義塾大學部にて民法の講座を擔當せる神戸氏の新著にして、曩に權利質の總論の意味にて、法學協會雜誌に掲載せられたる論文を修補し、尙ほ新に轉質の項目を加へて出版したるものなりと云ふ、之を二章に分ち、第一章にて權利質の總論を試み、更に之を三節に細分して第一に權利質と物上質との區別を明に

し、第二にて權利質の本質を説明して、權利物體主義と讓渡主義とを區別し、讓渡主義を排斥して權利物體主義を採り、進んで權利物體主義と日獨民法とを對照評論したり、第三にて權利質の法律上の性質を論じ、各種の學說を述べ、獨逸民法の立法政策と我民法の規定とを説き、權利質權は物權にも非ず、債權にも非ず、一種特別の權利にして、我國法上その目的の必要なる範圍に於て、之に物權性を附與したるもの外ならざる次第を論斷したり、次に第二章にて轉質を論じ、細論して承諾轉質、通知轉質、責任轉質及び轉質の法律上の性質を順次説明し、沿革を述べ、立法例を掲げ、學說を評し、日獨民法の規定を比較論評する等轉質の法理を説て遺憾なしと云ふ可し、僅に百頁餘に過ぎざる一小冊子なれども、民法上最も至難の問題を明瞭に論述したる著者の手腕は之を認めざる可からず、評者は敢て此書を我國の民法研究者に薦む

ると同時に著者神戸氏が一日も早く民法全部に亘る大著を公にせられんことを希望するものなり。(板倉卓造)

法學博士
戸田海市著 **日本の經濟**

大判七百十八頁 四十四年八月博文館發行
定價一圓五十錢

本書は我國屈指の經濟學者にして且つ達筆家たる著者が過去數年間に於て發表したる主として我國の經濟問題に關する論文及び講演の筆記を編纂されたるものなり。全書を分ちて四部となし、第一部は總説、第二部は農工商業、第三部外國貿易、第四部は金融貨幣及企業を論ず。第一部總説にて著者は我國と歐米との間の經濟狀態の相異を詳論し、彼の模倣のみに依りて我經濟的發展を企圖するの無謀なるを指摘し、彼我

習慣の根本的懸隔を説くこと極めて適切なり、第二部は農工商業と題すと雖も其精粗の程度一ならず。第二部の頁數は三百六十頁なるが、其中三十頁は農業を論じ、残りの三百三十頁は之を商業政策論に充てたり。工業論に至りては餘り多くの注意を受けざりしが如し。然れども、此部は全書中最も嶄新の觀察と研究の結果を含み居るならん。農業を論ずるに當りて著者は我國の經濟の根本は農業に在るも農業は猶幼稚なりと論じ、其理由は農民の因循姑息に在りと説き、農民保護の一策と目され居る米穀輸入税は農民をして依頼心を生せしむるのみにて無形の弊害多しと結論せられたり。著者は進んで園藝の奨勵を論じ、轉じて商業政策論に移り、取引所の弊害を除去するには取引所の役員の人選と同業者の相互監督に意を用ゐるを以て最上策とりと主張し、轉賣、買戻にも課税する代りに一般の税率を低減すべしと提言し、進んで直取引